

この度、平成27年～28年度の会長にご推挙いただきました東海大学医学部付属病院の伊藤仁です。ご支援いただきました多数の皆様方に心より感謝申し上げます。

さて、私の所信については会長選挙時に表明させていただいておりますが、日本臨床細胞学会の中の細胞検査士会の現状とともに、もうすこし詳しくお話ししたいと思います。

まず、細胞検査士の日本臨床細胞学会内での影響力、発言力の向上が重要と考えています。細胞検査士の声を学会に反映させるためには、学会運営に直接関与する理事や委員長を輩出することが必要不可欠です。昨年10月に行われた細胞検査士会の会長、副会長選挙に先立ち、2015～2016年度の日本臨床細胞学会理事選挙（全国区）が行われました。理事は評議員の中から選出されますが、今回の選挙は技師会員として区別されていた細胞検査士評議員が、学会の公益社団法人化により正会員として選挙に立候補した初の選挙でした。そしてこの選挙により選

出された22名の理事のうち、3名の細胞検査士が当選したことは、まさに細胞検査士会としては歴史的な出来事であります。私を含めこれまでの細胞検査士の理事は、理事長推薦の理事として細胞検査士会会長と副会長が宛職的に任命されてきました。長らく専門医と細胞検査士は車の両輪にたとえられてきましたが、やっと本当の意味での両輪となるべく、そのスタート地点に立つことができたと考えられます。しかしながら、全国区、地方区合わせて35名ほど選出される理事の中で、現時点（1月末日）で細胞検査士はわずかに3名であり、学会運営の側面からは車の両輪と呼ぶにはまだまだ程遠く、第一歩を踏み出したに過ぎません。私たちは日本臨床細胞学会の運営にもっと関与するべきであると考えます。現在、細胞検査士は正会員と準会員のどちらかを選択することが可能ですが、細胞検査士の声を学会に反映させるためには、多くの細胞検査士の皆様方に正会員となっていただきますようお願い申し上げます。

ご挨拶

東海大学医学部付属病院

伊藤 仁



次に、細胞検査士会の組織力をより強固にし、結束力を高めることが重要と考えています。特に、形式的に細胞検査士会と切り離された組織となった各都道府県細胞検査士会との連携は重要であり、これまで以上に有機的に繋がる全国ネットワークの形成に努めていきたいと思っております。

また、世代交代、人材育成について、スムーズで速やかな世代交代を成し遂げ、さらに次世代の人材育成を全国的な視野で展開していきたいと考えます。近年の数回の幹事選挙で、世代交代が進行しつつあります。年齢に関係なく有能な方々、様々な人たちが会の運営に参画することは有意義なことと考えますが、円滑な世代交代を行うことこそ会の継続的な発展に繋がると考えます。

さらに、細胞検査士の社会的地位向上、認知度向上について、国家資格化や業務制限を視野に入れた取り組みを推進したいと思います。そのためにもまずは学会内における発言力を向上させ、公益社団法人

人日本臨床細胞学会を巻き込んだ積極的な多方面への働きかけが必要と考えております。

医学・医療は急速な進歩を遂げており、細胞診を取り巻く環境も急速に変化してきています。全国の細胞検査士の皆様方と一緒に将来の細胞検査士の姿を考え、これからの細胞検査士会を創っていききたいと思います。細胞検査士会副会長および日本臨床細胞学会理事を4期8年務めさせていただいた経験とこれまで培ってきた人脈を十分に生かして、細胞検査士会発展のために取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくご支援いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、任を終えられる石井会長、是松副会長、各委員長や幹事、委員の皆様におかれましては、これまで多大なる功績をいただきましたこと、深く感謝申し上げますとともに、今後も引き続き検査士会へのご協力をお願い申し上げます。